

なにわ農業賞

新規就農含む7経営体を表彰

農業会議は10月24日に開いた令和7年度大阪府農業委員会大会で、なにわ農業賞の表彰を行った。

個人経営部門で、神藤秀和氏(泉佐野市・野菜苗、芝生、ブドウ、水稲等)、藤田善敬氏(泉南市・八尾市・クリスマスローズ、紫陽花、西洋大文字草等)、

横尾誠久氏(柏原市・ブドウ)、芝尾健氏(堺市・トマト、ネギ、シユンギク、コマツナ、水稲等)の4経営体。

今年度より新設した新規就農者部門で西野朱樹氏(岸和田市・水ナス、シユンギク、トウモロコシ、カブ等)、渡邊博文氏(八尾市・サツマイモ)、岸田崇氏(枚方市・イチゴ)の3経営体がそれぞれ受賞した。

いずれの経営体も都市農業という大阪の特長をうまく活用した経営を展開しており、その取り組み内容が府内の多様な農業の実践モデルとして高く評価された。

(沼田)



藤田善敬氏(泉南市・八尾市)



神藤秀和氏(泉佐野市)



芝尾健氏(堺市)



横尾誠久氏(柏原市)



渡邊博文氏(八尾市)



西野朱樹氏(岸和田市)



岸田崇氏(枚方市)

なにわ農業賞受賞者紹介87

農園の主要作目の追究を

富田林市 古川 雅英さん

富田林市龍泉の古川雅英さん(46)は、約1畝のハウスでナス、キュウリ、トマトを中心に多品目の野菜を生産している。

大学卒業後に親元就農した古川さんは、平成22年には家族経営協定を締結し、25年には、経営移譲を受けた。その後、雇用就

農資金を活用して農業大学校卒業生等を受け入れて研修し、多くの新規就農者を輩出してきた。地域においては、J A大阪南

ナス部会副会長を務めるほか、過去には富田林市4日クラブ会



「第21回なにわ農業賞受賞」と記載したパッケージで野菜を販売している

るなど、試行錯誤を重ねている。

対外的な情報発信もユニークで、学生時代から続ける音楽活動で「歌う農人(のうと)」として農園や大阪産農産物の魅力を発信してきた。近年は大学との連携のほか、小学校での食農教育にも協力し、地域貢献の幅を広げている。

今後については、「色々なことを試した上で、その季節の本当に美味しいものを作る」ことが大切だと改めて感じた。新たな作目も模索しているが、ナス、キュウリ、トマトをさらに突き詰めた。原点回帰です」と話してくれた。(沼田)